

午後1時零分再開

○議長（手嶋源五君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、11番富田栄一議員の質問を許可します。11番富田栄一議員。

（11番富田栄一君登壇）

○11番（富田栄一君） 東日本大震災、原発の傷跡が生々しいのに、先日の台風12号の被災を受けた方々に、あわせてお悔やみとお見舞いを申し上げます。

午前中、この議場におきまして、これからの朝倉市について熱い意見が問われてきました。将来に向かって朝倉市は大きく成長してほしいものだと思っております。

大変厳しい社会環境の中で、将来を担う子どもたちにかかっている問題は、子ども個人の問題だけではなくて、家族の問題だと言われています。逆に、家族それぞれの問題が子どもにかかわってきています。朝倉市においても、一つの課題の解決だけではプラスのよい成果は出にくいのではないのでしょうか。

さて、先日、朝倉市の公費高額療養費の未請求問題が明らかにあったとき、信じられないと思った人は何人いたのでしょうか。議会の声は、常任委員会の意見は、市政の中でどういう仕組みで反映されているのでしょうか。どこで行き止まってしまったのか、組織の問題としてはっきりしないといけない。

なぜなら、この問題が起きていた同じときに朝倉市下水道料金の賦課漏れが判明し、職員一同で、市民からの信用を回復するために努力していたときだからであります。

議会でも、厳しく、下水道以外のほかの部署でも一人でやっていて、チェック体制のできていないところはないのか。同じようなミスをする仕組みはないのだろうか、言ってみりました。議会の言葉が軽く受けとめられたのか、または、伝え方が悪くて、全職員が動いてくれなかったために起きた事件でしょうか。役所内では次のような会話があったのでしょうか。

今、こういう状態でこのままにしておくと、トラブルになりそうなことはありませんか。どうしてこうなったのか、今後どうすればいいのか、相談できますか。そして、今のいらいや怒りなど感情をあらわすのではなくて、自分が相手にどうしてほしいかを伝えること、解決のためにやってほしいことを具体的に伝えることができますか。

先日、私は、友達から気づかされたことがあります。私は、事が成就しなかったときには、すぐに「自分が悪かった」と謝るそうです。そのことはそれでけりをつけて、私自身が考えるのをやめているのではないか。それでは、それを行おうとした集団は一つも前に進まないし、これから先、応援もできないと強く言われました。組織の中での問題は、個人だけの問題ではないのです。

チェック体制と、解決のためにやってほしいことを伝えることしかできないこの議会には限界があります。そして、さらに、国は、市の基本計画はつくらなくてよいという方向性を示しています。このことは、議会は、国は、市の将来ビジョンについてかかわらなく

てもよいということであり、市の将来は、執行部の姿勢、取り組み方で大きく左右される。全国で頑張っている市町村が大きく伸びていくことになります。

今、市民への信頼回復のために、未来の朝倉市の発展のために、執行部の組織そのもののあり方、部、課、係といった垣根のある縦割り組織を変える大きなターニングポイントにかかっているのだと思います。その一つの変わる方向性として、朝から議論されましたが、将来の朝倉市を考えることが大切だと私も考えます。

また、お手元には朝倉市のホームページをもとに、表をつくりかえた平成23年度7月末現在の朝倉市の子ども数の資料をお配りしています。この質問の前に、この席から、明るく頑張っている日本一を目指す若者を紹介させていただきます。

国際大会のバレーボール、ユニバーシアード日本代表にセッターとして、杷木中学校出身の梅野君が選ばれ、世界第9位の成績をおさめられました。

さらに、水泳では、朝倉光陽高校の和田選手が、2年生でありながら、昨年に続いて、女子400メートル、800メートル自由型で、見事準優勝を勝ち取っています。和田選手は、全国中学生水泳大会では、800メートルでは3位、400メートルでは決勝にも残ることができず、全体で14位の成績でしたが、朝倉光陽高校に入学してから努力をし、2年連続準優勝と大いに頑張っておられます。

市長の唱えられる「日本一のふるさとづくり」、まさしく、はつらつとした子どもたちが育っていることを皆様にお知らせいたします。自席より質問をいたします。

(11番富田栄一君降壇)

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） 11番です。お配りした資料を見ていただければと思います。申しわけございません。ミスによりまして、人口の横にゼロから13の数字が並んでいますが、これは年齢をあらわしている数字で、その下にありますが、それぞれの子どもの数です。それから、7月現在ですので、今の子どもたちの学年、中学生・小学生の学年とは違うことを御理解いただきたいと思います。

朝倉市のゼロ歳児から13歳までの年齢別の人口表、これをいただいてどう思われたでしょうか。市のホームページから、19歳では611名の子どもたち、20歳の子どもたちは582名の人たちが朝倉市に住んでいます。表にあるゼロ歳の人たちがそのまま朝倉で生活するとして、20年後には410人の成人を迎えることになります。

働き盛りの人たちがそのまま生活したとしても、3割ほど減ってしまうこの朝倉市の現実を、どう考えていらっしゃるでしょうか。今の課題と、将来へ向けての課題の解決のために、政策は必要ではないかと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） 今の課題と、将来へ向けての課題の解決のためにということですが、今日的な課題という意味におきましては、市では、平成23年度当初予算

編成に当たって重点施策を策定いたしております。これは喫緊の課題を抽出いたしまして、優先度をつけて取り組むべき事業として体系化を図り、今年度予算化したものでございます。

また、将来に向けまして、市民の皆さんが朝倉市に誇りと愛情を持ち、朝倉市に住んでよかったと感じていただけるような政策を考え、推進していく必要がございます。例えば、少子高齢化に対応する施設や買い物弱者対策、公共交通機関の確保、中山間地の過疎化対策など、さまざまな分野で現在進行している実態を常に把握しつつ取り組まなければならないと考えております。

ただ、長期的視野で将来を見据えた視点は必要でございますが、刻々と変化しております社会情勢に対応し、スピード感を持ちまして、的確で効果的な対応で課題の解決を図ることによりまして、市民の皆さんに郷土に誇りと愛情を感じていただけることができれば、この誇りと愛情は、今後20年後も市民の皆さんの心の中に残ると思っております。将来の朝倉市に夢と希望を持つことができるように頑張っているところでございます。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） 11番です。「誇りと愛情」、非常にすばらしい言葉です。誇りと愛情がこの朝倉市に特化するという形で何があるのかな、本当に市長の言われる日本一のふるさとというのをずっと私自身も考えてまいりました。1350年前の朝倉、ここに本当に日本一の宝があるのではないかなと私は思っておりますが、執行部としてはどんな考えをお持ちでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） 私たちも宝がたくさんあるかと思いますが、まず、日本一のふるさとづくりとは、親と子、孫が、地域の中で一緒に暮らせる地域づくりだと考えております。

現状といたしましては、全国的にも少子・高齢化が進んでおります。人口減少が進む中で、朝倉市の高齢化率は27%を超えております。そのような中で、この地域に生まれ育った人たちが、安心して暮らしていけるために、まず、働く場の確保、農業を初めとする産業の振興が重要な課題だと認識しております。

生活環境がよく、働く場所があるということが一番安心して子どもを産み育てられることにつながると考えております。このような課題に対応して、さまざまな政策を総合的に行うことによりまして、市長がいつも言っております「日本一暮らしやすいまち」を目指していきたいと考えております。このことを市民の皆さんと一緒に実感していただくように、ふるさとに誇りを感じていただきたいと考えております。

もちろん、富田議員、1350年前の史実を誇りに持つことも一つだと思っておりますし、しかし、それだけではなく、産業・交通・観光・子育て・教育、いろんな面で市民の皆さん

んが、ほかにない朝倉らしさを実感していただくことが、市内外ですが、人たちにも誇れる、朝倉市に住んでよかったと感じていただける日本一のふるさとづくりを目指しております。

これが、親と子と孫と一緒に住める朝倉市づくりの意味であると感じております。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） 11番です。私は、きょうの質問におきまして20年後という時代軸を長くというか、ある意味小さいのかもしれませんが、行政としては長いところでのスパンでお尋ねしています。

見方によって、今の問題というのは、本当に職員の皆さん、執行部の皆さん、一生懸命取り組んでいらっしゃると思うのですが、先ほど申しましたように、基本計画を執行部自身が考えていかななくてはいけないという中で、縦軸の長さというのも必要になってくるのではないかなと思います。

1350年前というのは、日本の国の中心がこの朝倉にあったときだと日本書紀では書いてあります。大和の都から斉明天皇を初めとした多くの方々がこの朝倉に住んでおられます。住んでいらっしゃる方は、私が調べた限りでございますので、間違いがあるかもしれませんが。

斉明天皇、そのお子様であります中大兄皇子、後の天智天皇、それから、大海人皇子、後の天武天皇、それから、大友皇子、後の弘文天皇という3人の天皇の方も住まれていますし、額田王、または、大化の改新の中臣鎌足という方々も、本当に教科書に出てくる方々が、この朝倉に来たのではなくて、住んでいたと、この史実が何なのかということを私は非常に思うわけです。

そして、なぜここに来たのか、斉明は天の声を聞いて、それこそあのころ新聞もテレビも何もなかったでしょうし、ここの地がどう知られたのかわかりませんが、天の声を聞いて、この朝倉に、橘広庭宮という都を決められて住まれた。ただ、不運ながら、1カ月ちょっとで斉明が亡くなられましたので、また都はかわりましたけれども、本当に、仮の宮と言いながら、大和が空っぽになりながら、この朝倉にすべてが来ていたと。

市長の言う日本一というのはここにあるかなと私は思います。この時代軸を持ちながら、この誇りを持ちながら20年後の子どもたちが誇りを持てる地域にすること、さっき総務部長が言われましたけど、産業でも交通でも、それから文化でも、生活の住みよさでも、そういうものが本当に、1350年を見たときに私たちが忘れていたものがあるのではないかなと思います。

もちろん、市長が唱えていらっしゃいます小倉百人一首の第一首もこのときに読まれた歌だと思っておりますが、朝倉らしい日本一というのを持つべきではないかなと思います。

ほかにも秋月藩の藩医、緒方先生の初の種痘をされた方とか、いろんな方がこの朝倉に

は住んでいらっしゃる。その誇りを持って地域づくりをもう一遍やり遂げていくことも、目指すことも一つの大きな力になり、誇りになるのではないかなと。

そしてまた、子どもたちも、教科書に出ていた人たちがこの朝倉に住んでいたのだよというのを、私自身も信じられないぐらいの感動がありますが、子どもたちにとってはもっとすごい感動があるのではないかなと思っています。もう一度言います。どう生かそうと思われませんか。お尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（埜本 潔君） 歴史的な事実といいますか、歴史的な物事に目を向けることによって、地域を発展させるという視点は、非常に重要であるというふうに考えています。百人一首の取り組みにつきましては、各学校で現在、具体化しておりますけれども、それを、さらに、全国規模の大会を、例えば朝倉市の方でやるというようなことも含めまして盛り立てていきたいと。

さらには、現在ございます山田堰、あのあたりを、また一つの拠点としまして人が集まる地域をつくっていききたいというようなことで、一つ一つ具体化させながら、全体としては、また、連携させながら朝倉市のPRをしていきたいというふうに考えています。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） 先ほど冒頭で子どもの話をさせていただきました。子どもが抱えている問題は、子どもそのものではなくて、家族全員の問題であると、そういう大きな問題意識を持つことによって、子どもは大きく成長していく。逆に、一つの課題をクリアしても、その子どもはなかなか成長しにくいというか、その課題解決にはならないというのが、本当に、そういう子どもの成長の過程にあるというのを話させていただきました。

地域づくりというのも全くそうだと思います。お役所の中で、各課、係、それぞれがあって、その中で自分ができることを一生懸命考えていらっしゃる。一生懸命考えていらっしゃるけれども、なかなか横に行かない。

先日こんなことがありました。1350年前の朝倉の柱にある一つに、麻底良の山があります。延喜式にも入っている麻底良神社ですが、その登り口のふもとに区の所有する区有林があります。そこを管理していらっしゃる区の方から、そこを「駐車場なり、桜を植えて公園化なり、何とかできんやろか」と、「区の中でそんな話があるばってん、どうやろか」話がありました。

私は、まず、教育部のほうにお電話しましたが、「それは予算を持たんとですよ」、まちづくりの農林商工部のほうに電話しまして、「そうはなかなか難しいでしょう」と、「商工観光ではないかな」というふうにして、私がただけで幾つも、言葉は悪いですが、たらい回しというような形でなっています。ふるさとづくりをしていく中で人が生活するわけですから、みんながかかわって当たり前のことです。

さっき総務部長言われましたように、それぞれのことが、単なる歴史の中だけではなく

て、その一言がすべてのことにかかわってくるというのがふるさとづくりだと思っています。これだけの宝がありながら、そういう組織の枠組みがあるために活用できないというのはいかがなものかなと、本当に仕組みづくりをもう一遍考えるべきでないかなと思いますが、いかがでございましょう。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） 議員御指摘の件については言われるとおりに思います。行政の縦割りではなく、横のつながりも、今の時代が特に、なでしこジャパンに見られるように組織力というのが一番大事だと思っております。私たちも、そういったことによって、市民の方が、やっぱりその辺が、私は一番反省しなければいけない点だと思っております。

まずは、組織というのも人間の気持ちの持ち方によって変わりますが、今、現在の職員が一致団結しなければいけないと思います。そういった点については、もうちょっと気を引き締めて、縦割りのない、横割りも、チーム全体で臨まなければいけないと思っております。申しわけありませんでした。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） 総務部長、申しわけないことではなくて、これから先のことです。これから先みんなでやっていきましょう。みんな一生懸命頑張っているのですよと、だから一緒にやっていきましょうと、住民のそういう建設的な意見も取り上げられるような仕組みづくりをやりましょうよというのが私の提案でありまして、何も、執行部の皆さんを締めているわけでも何でもなくて。

これだけの財産がある、宝物が眠っている市はそうはないんだよ。この朝倉のすばらしさをもっともっと広める。市長はちゃんと旗印を上げています。親と子、孫、3世代が住めるまち、日本一のふるさとづくりを目指すという、この旗印のもとに、みんなやっていきましょうよっていうことを、私はこの一般質問の中で提案させてもらっている、また、私が気づいたことをここで話させていただいているのでありまして。

先ほど言いました、いろんな不祥事のこともありますが、すべてが、隣同士の意見を聞ければ、もっといいことができるのではないかと。さっきの子どもの成長と一緒に。箇所箇所を見ておっても全然よくなるので、組織づくりをもっと変えていきましょうよっていうことをお願いしているのですが、再度御答弁をお願いしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） 申しわけありませんでした。まず、ふるさとづくりについては、やっぱり組織全体でかかわるべきであります。日本一日本一と言いましても、組織が動いていないと日本一も当然できません。そういったことを、意識改革を重点に置いて頑張りたいと思います。そういったことでします。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） 組織の仕組みづくりと意識改革というのは大きく違うのではない

かなと思っています。資料をお配りさせてもらっていましたが3ページ目に、事業のあるべき姿と、その将来というのをコピーさせていただきました。これは、今、いろいろ言われているドラッカーのマネジメント思考と、ドラッカーの考え方からであります。

彼は、経営学者というよりも、「社会生態学者として」というふうに言葉が書いてありました。社会と企業を見つめたマネジメントを考えていると。

マネジメントとは何だというのは、その後のこの組織そのものに成果を上げさせるためのものであると。そして、その課題は何だと、組織の使命をしっかりと持つことである。2番目には、事業の生産性と、そこに働く人たちの達成度をしっかりと見つけて成功させること。3番目には、その組織の社会的責任をやっていくということがこの中にあっていると思います。

その将来像という話をずっとやりますが、今、朝倉市は、言いましたように、その資料の前のページを見てもらいたいと思うのですが、1ページ目では、本当に100%を超えたり90%であったりというふうに、人口の増減については上がったり下がったりじゃないかというのがあるかもしれません。これを6歳ごとに区切って整理してみました。そしたら、どんどん人口は減少傾向にあるというのは御理解いただけるかと思います。

もっと言いますと、19歳から24歳、それ以上の人たちにとっては、学生、または、就職としてこの市を出ていっている人たちがいるのではないかなと私は想像できるわけです。

そういう中においても、本当に、今の31歳から36歳には3,867人の人がいます。この中には、この朝倉市を仕事のために転出された方もいらっしゃると思います。子どもはもっと多かった数字がこの下にはあるのではないかなと。でも、それよりも、もっと少ない数の子どもたちしか今、この朝倉にはいません。同じように出ていったときに、この朝倉市に何人の子どもの子どもが出ていってくれるのだろうか。

午前中の討議にもありましたが、若い人たちがこのまちで住もうと、住みたい、そういうまちづくりをしていくべきではないかと思うのです。そのためにも、さっき申しましたように、ドラッカーの事業のあるべき姿とその将来という形の、次のページを見ていただければいいのですが、そのコピーをさせていただきました。

そして、そこは何て書いてあったかと、「現状と理想のギャップを明確にすることによって、事業の目標や戦略を策定できる」と、将来ビジョンについてをしっかりと作成していかないかん。これはどうすべきかというのは、本当にそれぞれの課だけではなくて、みんなが協力をしてやっていかないかんではないか、マネジメントとはそういうことだと思っています。

その中の一つに、中段のほうにありますけれども、その際に、ドラッカーは、1、人口の増減と構成、2、経済、流行などと、そういうことを、その実数についてを検討の題材としていったというふうにあります。

朝倉市として、人口の減少というのは紛れもなく数字としてあらわれています。これは、

ほかの町にもあることですよと言えばそれまでですが、いやいやその現象の仕方がちょっと厳しいのではないのという危機感を持ちながら、そして、今、育っている子どもたちが誇りを持ってこの朝倉市で生活していこうと、生計を立てていけるようなそういう政策を立てていくことが大切ではないかなと私は思うわけです。

今生まれてきた子どもたちが成人したとき、この朝倉市は輝くまちとなっているのだろうか、未来に向かって今やらなければいけないこと、課題は何かあるのでしょうか。それぞれの部の問題点をということで、6項目、教育、行政市民サービス、子育て、高齢者福祉、産業経済、公共事業、総務財政というふうな、私が思っているところですが書いてみました。いろんな意見あるかと思いますが、教えていただければと思います。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） 前の御質問とダブるかもしれませんが、御質問でも申し上げましたように、市民の皆さんお一人お一人がこの朝倉に、誇りと愛情を感じていただけることが、20年後も輝くまちになっていると思っておりますが、市長が、まず、マニフェストの中で7つのビジョンに42項目のお約束を掲げております。これらの事業を、市の事業に位置づけまして実施することによりまして、市民の皆さんに、朝倉市に住むことの誇りと愛情を感じていただきたいと考えております。

そうすることで、親と子と孫と一緒に暮らせるまちづくり、日本一のふるさとづくりにつながっていくと思っております。20年後も人が輝いているまちになるのではないかと考えております。

マニフェストで、議員言われましたように、幾つか項目がありますが、マニフェストにも子育て、環境、福祉、産業、観光、行財政などさまざまな分野を取り上げられております。中には、行政内部での一つの課単位だけでなく、既存事業に加えましてプロジェクトを企て、課や部を横断して対応すべき事業も含んでおります。職員一丸となって日本一のふるさとづくりに向けた取り組みを進めていきたいと考えております。

また、昨年度から地域コミュニティがスタートをいたしております。これからは、行政のみならず、各地域のコミュニティを中心としながら、市と市民の皆さんが一緒になって、3地域それぞれの特色を生かしながら、まちづくりを行っていくことによりまして、朝倉市全体の均衡ある発展を目指していきたいと考えております。

幸い朝倉市には、都会に薄れてきたと言われておりますが、きずなというのがまだ残っております。これは市の財産でございます。このきずなをさらに強固なものとしまして、朝倉市民としての誇りと愛情を持っていただけるような事業を、各地域の皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。取り組むことによって、20年後の輝く朝倉市を目指していきたいと考えております。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） 総務部長には、本当に一生懸命今できることを言っていたいた



と思うのですが、今一生懸命できることでありまして、この事業のあるべき姿とその将来に書いてます、今、現状の話をされています。現状の課題点、それだけではなくて、理想像というのが大事ではないかと、将来の事業のあり方、そして、事業が本来あるべき姿というその理想像をしっかりと見つめた中で、何がギャップがあるのか、そのために政策を何を打たないかな。

今のお話の中では、それぞれの課の問題点をそのままつくり上げていくわけですし、それでは、本当の問題解決にはならないと思うし、それぞれの課の職員の一人ひとりが、未来の朝倉に向かって頑張れる力が半分ぐらいしか発揮できないのではないかなと私は思うわけです。

何遍も言いますが、仕組みづくりを、組織のあり方を本当に今、考えなくてはいけないときになっているのではないかなと私は思いますが、いかがでしょう。

○議長（手嶋源五君） 総務部長。

○総務部長（渡邊義明君） 先ほど回答で、議員の御質問に沿わないかもしれませんが、現在の課題を解決することが将来につながると考えております。当面のことは当面あります。当面の解決をしないことには、20年先の将来のこともなかなか難しいかなと考えております。

ただ、組織づくりというか、そういう仕組みが大事でございます。とにかく、縦割りではなく、横の連絡を十分とりながら、まず、現在の課題、現在の課題というのは、その場しのぎかとも思われたら語弊があるかと思いますが、まず、今の御不満を解決することが将来の問題解決につながっておりますし、5年、10年先、15年先、なかなか難しい面があります。

私たちも、新しい情報をとりながらも、こういった重点施策といいながらも、23年度の重点施策であります、これは将来に向かっての重点施策だと考えております。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） よくわかっているのです。よくわかっているのだけど、今の私たちの不安と、今の子どもたちが大人になったときの生活の不安というのは全然違うはずで、20年前に携帯電話がこんなにあったでしょうか。パソコンがあったでしょうか。全然私は追いつけません。もっともっと子どもたちの時代になると変わってくると思うのです。

そういう将来のあるべきビジョンというのは、もっともっと、朝倉市が何に特化して、もっとやるべきことがあるのではないかなと思うわけです。

そういうことをするためには、それぞれの課の今の問題点も大事です。大事なのですが、将来この子どもたちが残るために何ができるかという、チームワークが必要ではないかなと、その中でできる政策というのが絶対あるはずだと私は思っているのです。それがないと、朝倉市の将来ビジョンというのはなかなかつukれないのではないかな。

1350年前に日本の中枢がこの朝倉にあって、日本の政治のお伺いをしにこの朝倉まで来られたということがあったかもしれない。日本書紀にある程度書いてあるそうです。私は余り歴史は得意ではないので、申しわけないのですが。

本当にそういうことがこの朝倉であったならば、将来の子どもたちにその大地の根っこ、この風土をもっと光輝くものに伝えてあげることが、今の私たちができること、そして、その中にいくと、交通の便がよかったり、おいしいものができる、2万人から3万人の兵隊と宮仕えの方から出てきたので、おいしい食べ物ができたり、それから、そこにある霊力というか、この地の力があつたからこそ天皇がここまで来られたのだと思うし。

ましてや、今からの本当に経済的にも近くになる、そして、大事なアジアに近い、そういう地域にあるからここに都が置かれたのだろうし、これから先のいろんなヒントが1350年前の朝倉にあり、それをみんなで拾い出すことで、自分の課だけで拾い出すのではなく、みんなで拾い出すことで、もっともっとすばらしい朝倉市が、日本一のふるさとができるのではないかなと私は思います。

今のままでいったら、また、さっき言いましたように、チェックをなさい。一人でしている人はいないねと言いながら、やっぱり凡ミスが、人間ですからできるのです。絶対絶対ない。ならば何ができるかと、横の連絡をして、みんなお互いに頑張りよるやんねという声かけができるような、そういう仕組みづくりが本当に大事ではないかなと思います。いかがでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（埜本 潔君） 行政課題を解決するための縦割りを改善するといえますか、そういった意味での部局の連携という問題と、今回の不適正問題のようなことを起こらないようにするための職員間の連携といえますか、そういった意味での連携と、2つのお話かなと私なりに理解してお答えしますと、まず、部局の連携につきましては、やはり、なかなか難しいところありますけど、一つには、機構改革の中でも、そういった観点を入れてより機能的に連携が図れるように、私自身も、機構だけに頼るのではなく、みずから横の連携が図れるように、部課長に指示を出していくというようなことをやっていくべきだと考えています。

事務の不適正な処理があつたり、不適格な処理につきましては、やはり、一人の職員だけに行わせるということではいけませんので、主任副任制度、あるいは部課長の確認といえますか、そういった問題をきちっとやっていかないといけないと、さらには、各部局の仕事が、それぞれのところがそれぞれでということでは、先ほどのたらい回しみたいな問題も起こってきますので、そのようなことがないようにやっていくべきだというふうに考えています。議員の御質問を私なりに理解しての答えですので、申しわけありません。以上です。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） 組織のあり方を変えるというのは非常に難しいことだと思っておりますが、それをあえて私は一般質問をさせていただいています。このままではいけないのではないかなというのを強く強く思っています。

もう一つ、1350年前の朝倉について、私は私なりの思いを言いましたけど、執行部としてはどんなふう感じておられていますでしょうか。お尋ねいたします。

○議長（手嶋源五君） 教育部長。

○教育部長（藤本具彦君） 議員御質問の斉明天皇ゆかりの朝倉橘広庭宮、朝倉宮の関係をどのように考えているかということですが、教育委員会部局の考え方につきましてまず先に申し上げさせていただきたいと思えます。

これにつきましては、議員、先ほどから申されたようなことございまして、日本書紀では、661年に唐、新羅に滅ぼされました朝鮮半島の百済を再興しようと、今言われました斉明天皇、また、中大兄皇子や中臣鎌足等がこの朝倉の地に結集し国事をとり行っていたということは書かれておりますので、これにつきましては間違いないのではないかなというふうに思っているところでございます。

また、先ほど、ではなぜこの地にしたのかという部分では、食糧生産等の関係なり、やっぱり、そこに結集した人が暮らしていかないかという部分もございまして、そういった食糧を賄えることができるというような役割とか、防衛上の戦略的な重要な拠点であったというふうに思われているというようなことをお聞きしているところでございます。

そういった意味で、この地の発掘につきましては、昭和8年から9年にかけて九州大学、48年から50年にかけて、福岡県の九州歴史資料館によりまして発掘が行われているところでございますが、残念ながら、朝倉宮の遺構等は確認されていないところでございます。

しかしながら、今言いましたようなこともございまして、朝倉の橘広庭宮につきましては、古代日本史における解明にかかわる超一級の歴史的ロマンになり得るものであるというふうに思いますし、そういったことからしますと、このことにつきましては、朝倉市が誇れるものとしても超一級のものになるのではないかなというふうに考えているところでございます。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 今、教育委員会のほうから朝倉宮についてのお話がありました。私どもは、朝倉宮についても種々節はあるようです。太宰府にあったというふうな話も最近出ておりましたけども、私どもは、あくまでもこの朝倉の地にあったということで、それを、この朝倉に住む人たちがやっぱり誇りに思ってもらいたいし。

例えば、前の中島議員の質問にもお答えしたのですけれども、私は、旧甘木市の出身です。では、子どもころ、例えば小学校とか、歴史の中では、子どもころ、例えば朝倉

とか、それから杷木のそういった郷土の歴史、古い、教科書では教えてくれない、そういったものを教わった記憶がないのです。

だけど、その後、私なりにいろいろ聞いて、やっぱりすごいものがあつたのだな、確かに、その当時、百済救済のためにここに都を移されたという話を聞いておりますけど、たとえどういう事情であろうと、どういう内容であろうと、やっぱりここにあつたということ、そのものがやっぱりこの朝倉にとっては貴重なことだろうということで、これは大いに生かしていかなければならんということ。

一つには、朝倉の一带については、あそこには山田堰もすぐ隣接してございます。堀川用水もございます。三連水車もあります。そういうことと含めて、歴史的には違うのですけれども、お互いにそれぞれの地域の中で、やはり、文化的、歴史的に非常に重要なことだということで、何とか連携してそこを朝倉の一つの拠点にしたいということで今取り組みを、それこそ、これには、やるには企画の部分も必要でありますし、都市建設部の御協力も必要でありますし、教育委員会、文化課も一緒になってやらなければならないと、今言われる縦割りではできません。やっぱり横が連携してやっていくということが大事になるのだらうと思いますので、そういう形で、1350年前の私どもにとって非常に大事なものを今からきちっと守っていく。守っていくだけではなくて、それをいかにこの地域から、情報としてほかの皆さん方に発信していくかということもあわせて取り組んでいかなければならんというふうに思っています。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） ありがとうございます。市長、本当に、課を超えて、やっぱり宝を育てていくというのはありがたいことだと思っておりますし、それが本当に大事なことだと思っております。この前も申しましたと思っておりますけれども、国際性、国際化社会という中で、英語を話せるから国際化という話ではないと、本当に自分の足元に誇りを持って、自分のふるさと、自分の住んでいるところを誇りを持って話せることが国際化であるということを言っています。それが本当に大事だと思うし、それそのものがこの朝倉にあるわけですから、市長の言われる日本一のふるさととは決して夢物語ではなくて、旗印の現実が見えてきているのではないかなと私は思うわけです。

本当に、さっき申しましたけども、麻底良山の登山道の公園の件、これは、この場の話ではなくて、改めて地元からの声が上がってくるかもしれませんが、そのときには、ちゃんとした課を通じて、執行部としてどうするか、全体像がまだまだ見えないのかどうか分かりませんが、そのことだけではなくて、その一つだけではなくて、全体的な朝倉として考えていただく一つとしてとらえていただきたいということをぜひお願いしたいと思っております。

4番目に、副市長が話されましたが、私自身は、未来への政策を各部ごとに考える必要があると思う。そうすることで横のつながりもできるというふうに言っています。これは、

それぞれ自分のものだけではなくて、さっき言いましたように、目指すべきビジョンというものを持って、それぞれの部長がしっかり考えていただくことが必要ではないかなと思うわけです。

そうすることによって、逆に部の垣根がそろえるのではないかと、やっぱり私は、あえてここで言いますけれども、部、課、それぞれの仕組みをもう1回考えるべきではないかなと思うのですが、市長、そこはどうでございましょうか。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 部、課の仕組み、それは、形としては、もちろん機構改革という形もあるでしょうし、いろんな形があるのだらうと思います。

ただ、さっき総務部長も言われましたけれども、どういう形をつくろうと、そこで働く職員たち、皆さん方の意識というものがやっぱりないとだめだろうというふうに思いますので、そこは両方合わせて今後考えていくべき課題であろうというふうに思っていますので、ここでの答弁ではそういう形で御容赦願いたいというふうに思っています。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） なかなか垣根がとれないという話であれば、午前中のお話の中でもありましたが、情報というものが非常に大切になってくるのではないかなと思います。それぞれの課同士の情報、部同士の情報というのもありましようが、もう一つ、市民の情報をどうとるか。市民が逆に、外側の情報をどうとって、また、市民が外にどう発信していくかというのをあるかと思えます。

これは、また、非常に資本的なものが入ってきますので、即答は難しいと思えますけれども、思いだけで結構ですが、光ファイバーとか、そういう要望もありますし、本当に、これから先、日本一のふるさとをつくるためには、この朝倉市の情報を出すこと、本当に、工場を誘致するのも大事ですが、こうやって住みよいまちでもありますよ、通勤圏でもありますよという情報を出すこと、きれいな水がありますよ、温泉もありますよと。

さっき言った橘広庭宮の橘というのは、不老不死の薬を意味したそうです。健康に気をつけているまちですよ、2万人の兵隊が来ましたと、それを、その食糧を補えるだけの、土壌の本当に肥えた土地ですよと、要するに、いろんなものができます。おいしいものができますよと、天皇の台所を賄った土地ですよというか、いろいろな形が出てくると思えます。そういう情報を、まとめて出すためにも、そういう道具、そういうのが必要ではないかなと思うのです。そこあたりのことはいかがでございましょう。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 朝倉市として、朝倉市のいわゆるすばらしいところ、そういったものの情報を発信をしていくということは重要なことであるというふうに考えています。どちらかという、現在までの朝倉市は、そこらあたりはちょっと苦手だったのかなという認識は私自身も持っていますので、十分そこらあたりについては、今後心して取り組ん

でいきたいというふうに思っています。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員。

○11番（富田栄一君） 最後に、まず組織、本当に朝倉の持っている宝をどうやって外に出して、このよさをPRし、そして、いかにここに住んでもらえるか。今育っている子どもたちも、それを誇りに持って、外に行ったときに話せるか、そして、ここで、逆に言うと生活しようと思うかということを経営として、ぜひ、執行部の皆さんにもお願いしたいと思えます。

それから、もう一つ、そのためには、職員の皆さんもしっかり勉強していただきたいと思うのです。コンサルに頼むというのも一つの手だと思うのですが、私は、合併したときの思いの一つにあるのは、コンサルタントに頼まなくていいように、職員の質を上げていくのだよと、それが合併の一つの目標だよとありました。何かしらこの市の本当の宝は、足で運んできた職員の皆さん一人一人が持っているのです。もちろん私たちも、そういうのをしっかり思っています。ぜひ、朝倉市を日本一のふるさとに実現が可能であると思えますので、走っていきたく思います。よろしくお願ひします。以上で、一般質問を終わります。

○議長（手嶋源五君） 11番富田栄一議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午後1時48分休憩